



2026年9月期第2四半期 決算補足説明資料

2026年5月15日



エグゼクティブサマリ

EBITDA 46%増

2026/9期2Q累計のEBITDAは前年比46%の増加。ただし、税金費用の負担増から当期純利益ベースでは前年比減

通期想定 上方修正

2026/9期通期のEBITDA見通しは前年比3倍の12億円。低侵襲医療機器販売を主因に、従来想定より2億円増額

FCF

2Q累計のFCFは19億円のマイナス。支払い超は4半期連続。保有資金の有効活用に向けて積極的な投資を継続

中間持株会社 吸収合併

中間持株会社ファスキアHDの吸収合併を計画。重層的経営機構を解消し、経営効率化や意思決定速度の加速を狙う



1

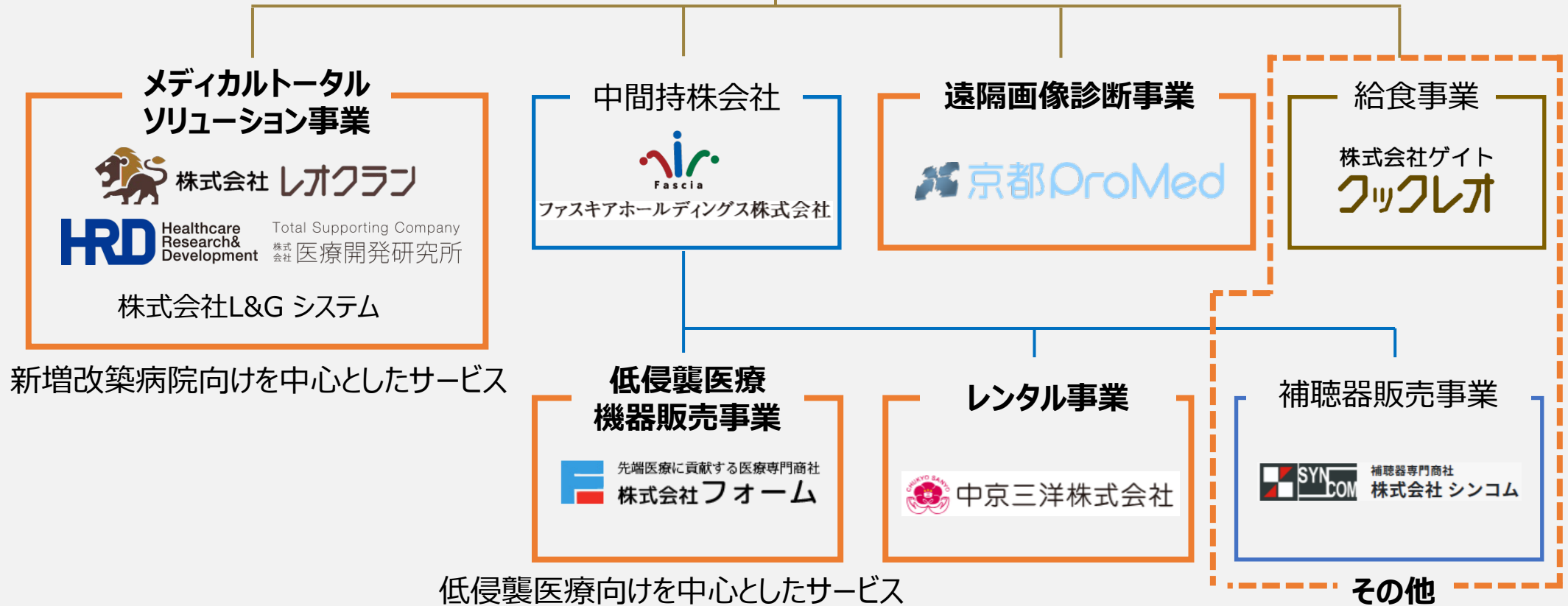
2026年9月期2Q決算実績



当面の組織構造と事業セグメント



株式会社 レオクラン



2026/9期以降の報告セグメント



2026年9月期2Q経営成績①

- 2Q累計決算では対前年で87%の大幅増収。期初にグループ入りしたファスキアグループの業績が大きく影響
- 営業利益は6%の増加。ファスキアグループの貢献はあったものの、主力のメディカルトータルソリューション事業が前年に計上した好採算案件の反動が影響し、増益幅は増収幅に比べて限定的に

経営成績の推移

(百万円)	2023/9期 2Q実績	2024/9期 2Q実績	2025/9期 2Q実績	2026/9期2Q		
				実績	前年同期 差異	前年同期比 増減率
売上高	11,662	12,216	12,940	24,280	+11,340	+87.6%
メディカルトータルソリューション	11,095	11,633	12,337	12,475	+138	+1.1%
遠隔画像診断サービス	361	372	409	412	+2	+0.7%
低侵襲医療機器販売				10,189	+10,189	-
レンタル				317	+317	-
その他	205	210	193	885	+692	4.6倍
EBITDA*	312	407	541	793	+251	+46.5%
営業利益	263	357	496	526	+30	+6.0%
メディカルトータルソリューション	218	318	452	304	▲147	▲32.7%
遠隔画像診断サービス	39	30	41	41	+0	+0.4%
低侵襲医療機器販売**				183	+183	-
レンタル**				37	+37	-
その他	4	7	1	18	+17	11.2倍
調整	1	1	1	▲59	▲60	-
経常利益	249	357	513	507	▲5	▲1.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	143	220	344	235	▲108	▲31.5%

*EBITDA = 営業利益 + 償却費と定義 **セグメント利益はのれん償却費・株式取得関連費用配分額を控除後ベース

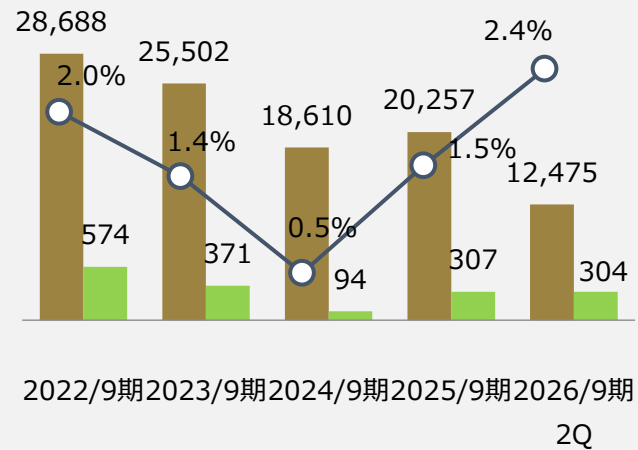
セグメント別業績推移

■ 売上高 (百万円) ■ 営業利益 (百万円)
■ EBITDA (百万円) ○ 営業利益率/EBITDAマージン (%)

メディカルトータルソリューション事業

株式会社 レオクラフ **HRD** Healthcare Research & Development Total Supporting Company 医療開発研究所 株式会社L&G システム

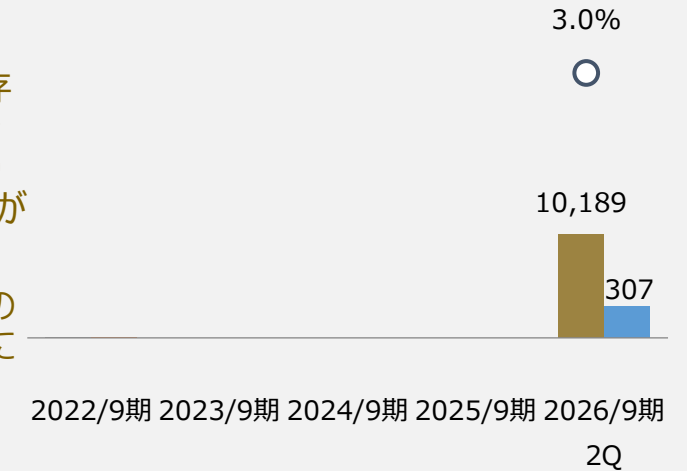
- 2Qに案件計上が集中し、利益率は前年通期に対して改善。しかし、大型新增改築案件なく、前年同期では利益率低下
- 環境も厳しい状況継続。病院の更新需要は根強いものの、建設費高騰などが着工を阻害



低侵襲医療機器販売事業

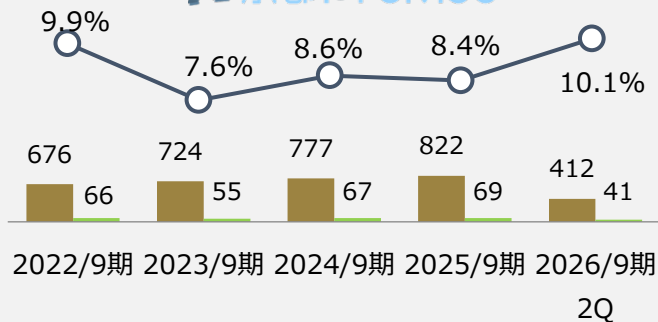
株式会社 フォーム

- 好調に推移。既存施設での拡大・新規施設獲得により循環器系消耗品が増加
- スポットのな大型の医療機械も堅調に推移



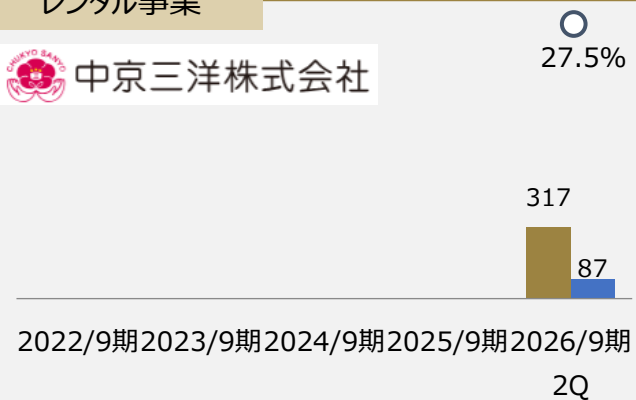
遠隔画像診断サービス事業

京都OroMed



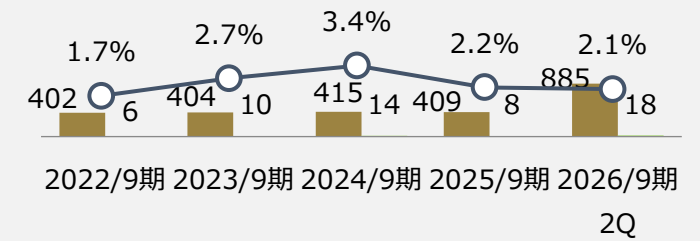
レンタル事業

中京三洋株式会社



その他

株式会社ゲイト クックレオ SYN.COM 補聴器専門商社 株式会社 シンコム





2026年9月期2Q経営成績②

- 四半期ベースでは同一基準で比較できる1Qに対して34%の増収。メディカルトータルソリューション、低侵襲医療機器販売の2主力事業がともに増収。その他の事業も安定的に推移
- 損益面でも、主力事業の伸長が大きく貢献。2Qの粗利率実績は12.6%と高水準を維持し、営業利益、EBITDAはともに1Q比で大幅増益。なお、2Qの本社コストは、これまで計上していたM&A関連の一時費用計上が完了し、大きく減少

経営成績の推移

(百万円)	2024/9期				2025/9期				2026/9期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q*	2Q
売上高	5,413	6,803	3,496	4,090	3,171	9,769	4,267	4,281	10,372	13,908
メディカルトータルソリューション	5,124	6,509	3,189	3,787	2,871	9,466	3,954	3,965	4,806	7,668
遠隔画像診断サービス	186	185	200	205	206	203	204	208	209	203
低侵襲医療機器販売									4,728	5,461
レンタル									166	150
その他	102	108	106	97	93	99	109	107	461	424
EBITDA	160	246	▲95	▲33	▲212	753	0	▲164	135	668
営業利益	136	221	▲120	▲59	▲235	732	▲22	▲186	4	522
メディカルトータルソリューション	117	200	▲147	▲76	▲256	709	▲46	▲98	▲4	309
遠隔画像診断サービス	15	15	21	15	23	18	17	10	23	17
低侵襲医療機器販売									40	143
レンタル									6	31
その他	2	5	5	1	▲2	3	6	0	6	12
調整	0	0	0	0	0	0	0	▲99	▲67	8
粗利率	13.9%	12.3%	13.7%	13.5%	11.1%	13.4%	13.3%	12.0%	13.3%	12.6%

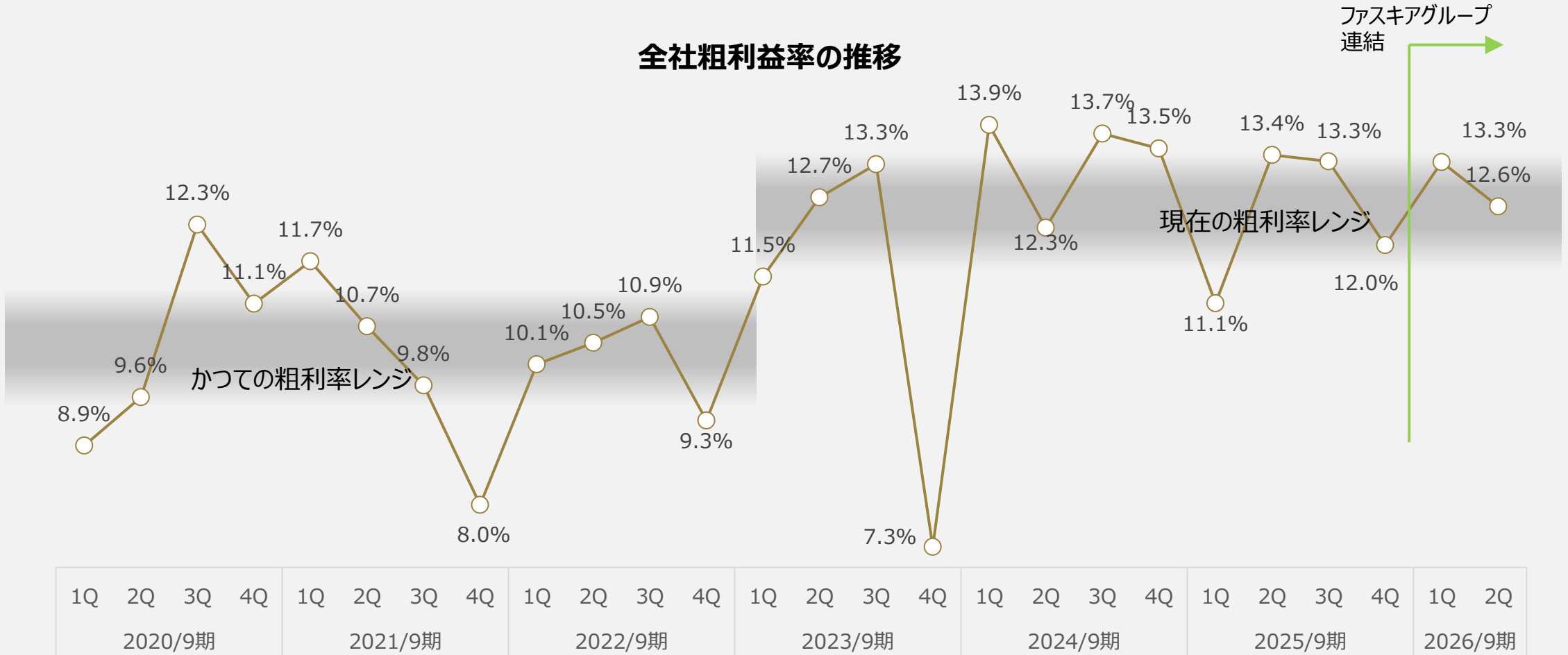
*2026/9期1Qは、企業結合について、取得原価の配分の見直しを行った影響を反映



粗利益率の推移

- 2Qの粗利率は12.6%。新たに加わったファスキアグループも高粗利率であり、全体として高い水準を維持

全社粗利益率の推移

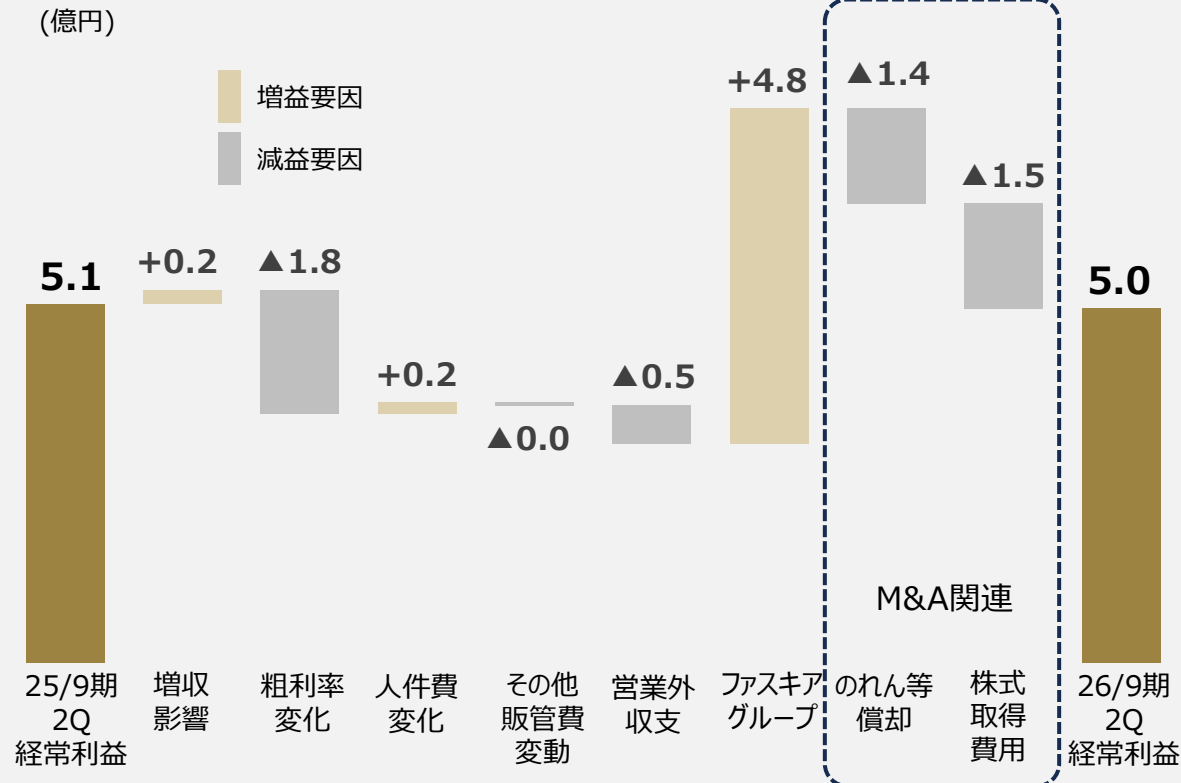




2026年9月期2Q 経常利益増減益要因分析

- 2Qの経常利益は対前年比ほぼ横ばい（0.1億円の減益）。内訳は、旧レオクラングループで2.0億円の減益、ファスキアグループで1.9億円の増益インパクト。
- 旧レオ克蘭では、前期にあった好採算のメディカルトータルソリューション事業の大型案件消失に伴い、粗利率が1.3ポイント低下。ファスキアグループは業績堅調な推移ながら、M&A関連費用の計上によってその効果は圧縮

経常利益増減益分析



<旧レオクラングループ>

- 増収影響 +0.2億円
 - ・メディカルトータルソリューション事業は微増収
- 粗利率変化 ▲1.8億円
 - ・粗利率は1.3pt低下（12.8%→11.5%）
- 人件費変化 +0.2億円
- 営業外収支 ▲0.5億円
 - ・借入増に伴う支払金利負担増

<ファスキアグループ>

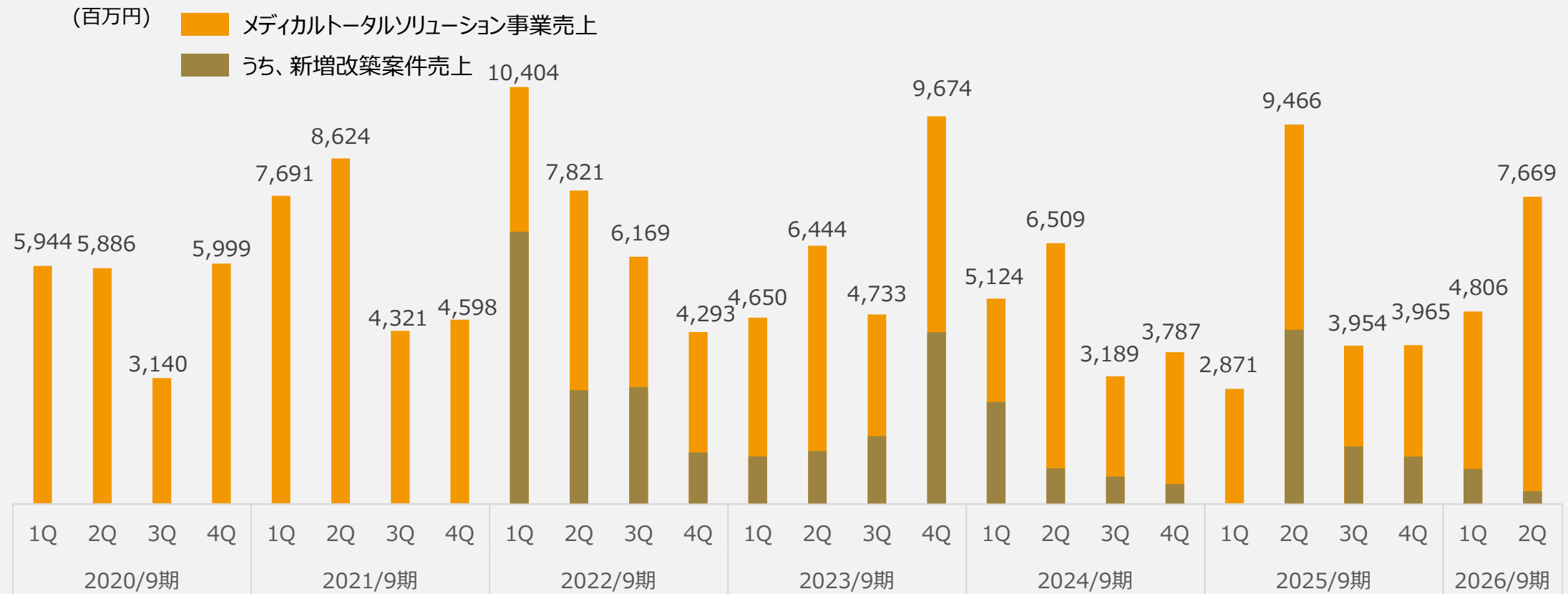
- 経営統合 +4.8億円
- M&A関連費用 ▲2.9億円
 - ・のれん等の償却 ▲1.4億円
 - ・株式取得関連費用の増加 ▲1.5億円



メディカルトータルソリューション事業売上推移

- メディカルトータルソリューション事業の2Q会計期間の売上高は77億円。案件計上の集中もあり、これで3四半期連続で増加
- ただし、新增改築案件売上は3四半期連続で減少。案件が集中した前2Qとの比較では大幅な減収となり、これが粗利益率低下の主に

メディカルトータルソリューション事業売上推移



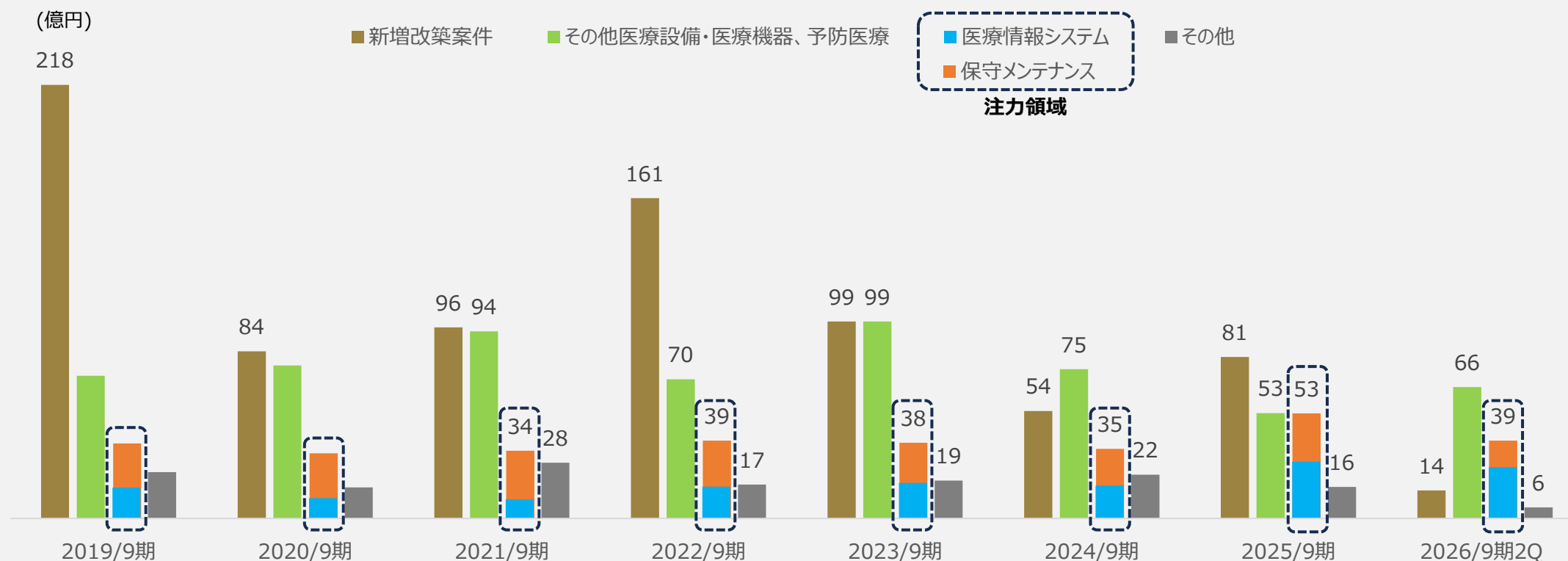
注) 2021/9期以前の新增改築案件売上は非開示



メディカルトータルソリューション事業 売上内訳推移

- メディカルトータルソリューション事業の2Q売上内訳は、新增改築売上が伸び悩んだものの、これを補うべく年次での機器更新などを取り込み、その他医療設備・機器は好調に推移。2Q時点で既に前年通期の実績をクリアし、2Q決算を下支え。
- 注力領域たる医療情報システム、保守・メンテナンスの売上も順調に拡大。引続き前年実績を上回るペースで推移

メディカルトータルソリューション事業売上内訳

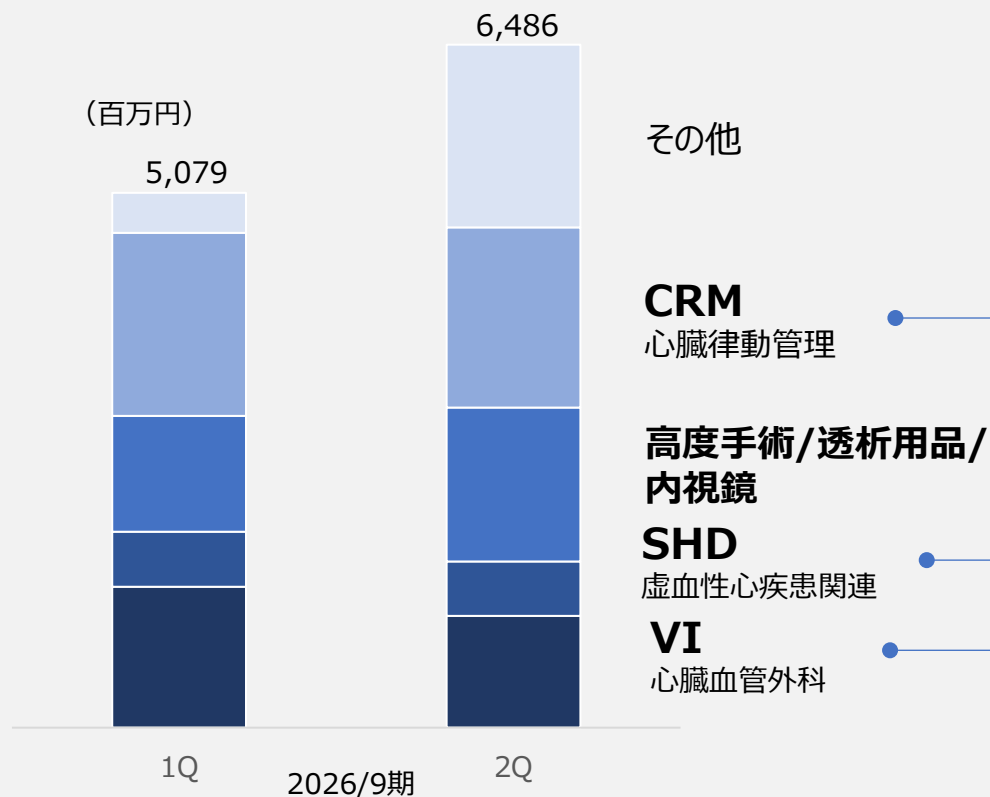




低侵襲医療機器販売事業 売上内訳

低侵襲医療

身体への負担（切開、出血、発熱など）を最小限に抑える治療方法。患者の体力負担軽減が主たるメリット



*収益認識基準適用前のため、決算における売上高とは一致しない

CRM : Cardiac Rhythm Management

ペースメーカーなど不整脈や心不全などの心臓のリズム異常の治療・管理機器



ペースメーカー



ペースメーカー



ICD

高度手術/透析用品

内視鏡、サージカル、透析関連機器他



人工関節



透析機器



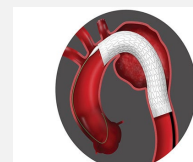
内視鏡システム

SHD : Structural Heart Disease

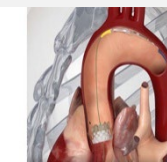
心臓弁膜症（大動脈弁狭窄症、僧房弁閉鎖不全症など）異常関連治療



経皮的僧帽弁接合不全修復



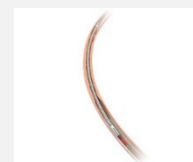
ステントグラフト内挿



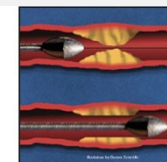
経カテーテル大動脈弁置換

VI : Vascular Intervention

カテーテル、画像診断、バルーン、ステントなどによる狭窄・閉塞血管の治療機器



ステント



ロータブレータ



IVUS



2026年9月期2Q 貸借対照表

- 買収したファスキアグループの連結により、総資産は前期末比約2.5倍となる266億円に拡大。事業規模拡大に伴い、債権債務や固定資産が増加したうえ、低侵襲医療機器販売は高度専門消耗品ビジネスでもあるため、棚卸資産も増加
- 2Q末時点のネットキャッシュは22億円減の25億円。ファスキアホールディングスの株式取得に伴うキャッシュアウト後もネットキャッシュ状態を継続。財務安定性は引続き盤石。2Q末の自己資本比率は21.6%。

財政状態の推移

(百万円)	2022/9期	2023/9期	2024/9期	2025/9期	2026/9期 2Q	前期末比差異
流動資産	12,232	13,508	9,583	9,298	19,968	+10,670
現預金	5,480	5,537	5,574	4,776	7,561	+2,784
売上債権	4,360	7,796	3,821	4,198	11,012	+6,814
棚卸資産	24	21	71	23	1,089	+1,066
その他	2,368	153	118	302	308	+6
貸倒引当金	▲0	▲1	▲1	▲2	▲3	▲0
固定資産	1,235	1,185	1,076	1,571	6,609	+5,038
総資産	13,468	14,693	10,659	10,869	26,577	+15,708
負債	7,930	8,969	4,918	5,050	20,653	+15,603
仕入債務	3,960	7,620	3,417	3,470	12,362	+8,891
有利子負債	92	2	9	7	5,042	+5,035
その他	3,876	1,347	1,490	1,572	3,248	+1,675
純資産	5,537	5,724	5,741	5,819	5,924	+105
負債純資産合計	13,468	14,693	10,659	10,869	26,577	+15,708



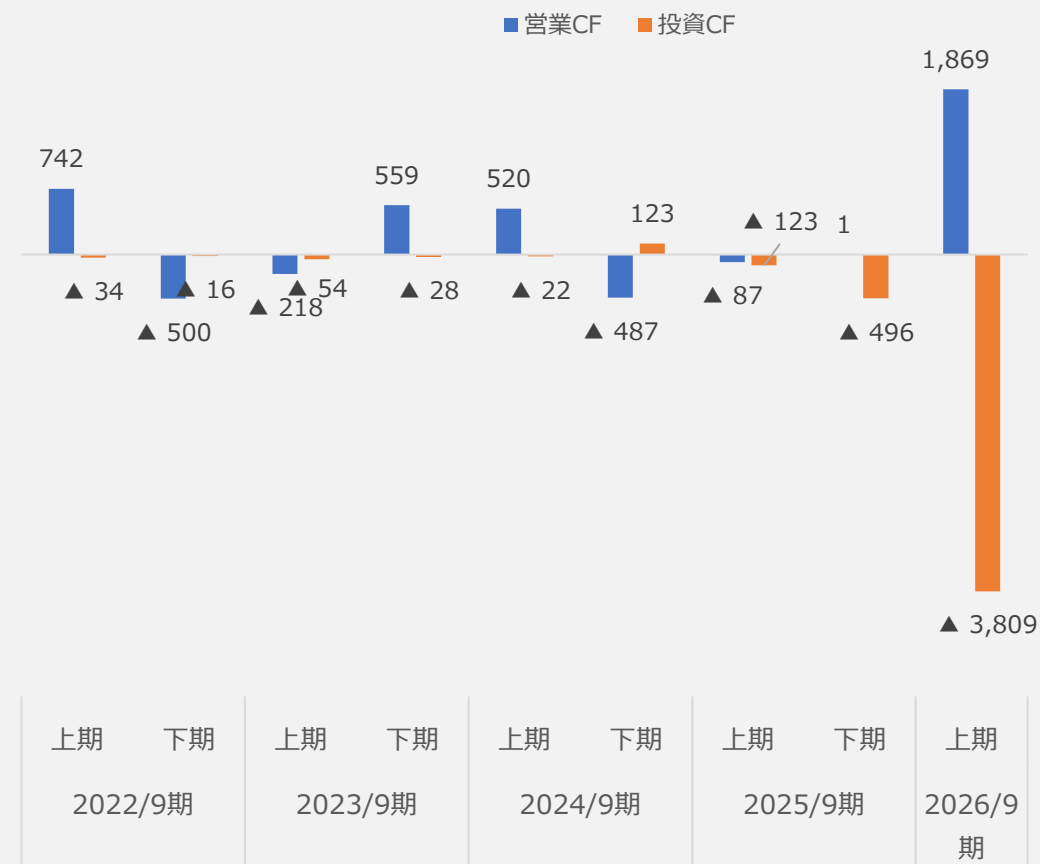
2026年9月期2Q キャッシュフローの状況

- 2026/9期2Q累計のFCFは19億円のマイナス。支払い超は4半期連続。保有資金の有効活用に向けて積極的な投資を継続
- 営業CFの増加はファスキアグループ参画による事業規模拡大が影響。投資CFが膨らんだのは、ファスキアグループ株式取得によるもの。この株式取得関連の支出は下期以降は消失の見込み

キャッシュフローの推移

(百万円)	2024/9期	2025/9期	2026/9期 2Q
営業CF	33	▲86	1,869
税前当期純利益	273	308	507
売上債権/仕入債務増減	▲227	▲324	1,023
その他	▲13	▲71	337
投資CF	100	▲619	▲3,809
FCF	133	▲706	▲1,940
財務CF	▲97	▲100	4,725
有利子負債の純増減	▲1	▲2	4,783
株式の発行による収入	7	6	0
その他	▲102	▲104	▲58

* FCF=営業CF+投資CF で算出





2

2026年9月期決算見通し



2026年9月期業績見直し修正

- 2026/9期通期見直しを増額修正。売上は従来想定より25億円引上げとなる445億円、EBITDAは2.5億円増額の12億円、経常利益は2.3億円増額の6.1億円と予想。それに伴い、当期純利益見直しも引上げ
- 修正の主因は、低侵襲医療機器販売の好調。売上想定で29億円引上げ、営業利益見直しも1.5億円増額。一方、メディカルトータルソリューション事業は売上見直しはダウンも、経費抑制などで利益見直しは引上げ

経営成績の推移

(百万円)	2024/9期 実績	2025/9期 実績	2026/9期見直し			前年比 増減率
			従来想定	修正見直し	修正差異	
売上高	19,804	21,489	42,000	44,500	+2,500	2.1倍
メディカルトータルソリューション	18,610	20,257	21,104	20,645	▲458	+1.9%
遠隔画像診断サービス	777	822	832	832	±0	+1.2%
低侵襲医療機器販売			17,680	20,580	+2,900	-
レンタル			571	630	+58	-
その他（2025/9期以前は給食）	415	409	1,811	1,811	±0	4.4倍
EBITDA*	277	378	933	1,185	+252	3.1倍
営業利益	178	288	460	680	+220	2.4倍
メディカルトータルソリューション	94	307	128	153	+24	▲50.3%
遠隔画像診断サービス	66	69	67	73	+5	+5.4%
低侵襲医療機器販売**			227	380	+152	-
レンタル**			85	88	+2	-
その他（2025/9期以前は給食）	14	8	31	42	+10	4.7倍
調整	2	▲97	▲80	▲56	+24	赤字縮小
経常利益	181	308	380	610	+230	+97.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	136	152	8	230	+222	+50.5%

*EBITDA = 営業利益 + 償却費と定義 **セグメント利益はのれん償却費・株式取得関連費用配分額を控除後ベース

2026年9月期業績見通し（半期別）

- 半期別には、上期実績に対し、下期の修正後見通しは減収減益と想定。売上想定を引き上げた低侵襲医療機器販売は増収増益を見込むものの、メディカルトータルソリューションは大型案件の計上少なく、前下期の水準に留まる見通し
- その他の事業は、概ね堅調に推移。遠隔画像診断サービス、レンタル事業は売上こそ小規模ながら、利益貢献は一定のインパクト

経営成績の推移

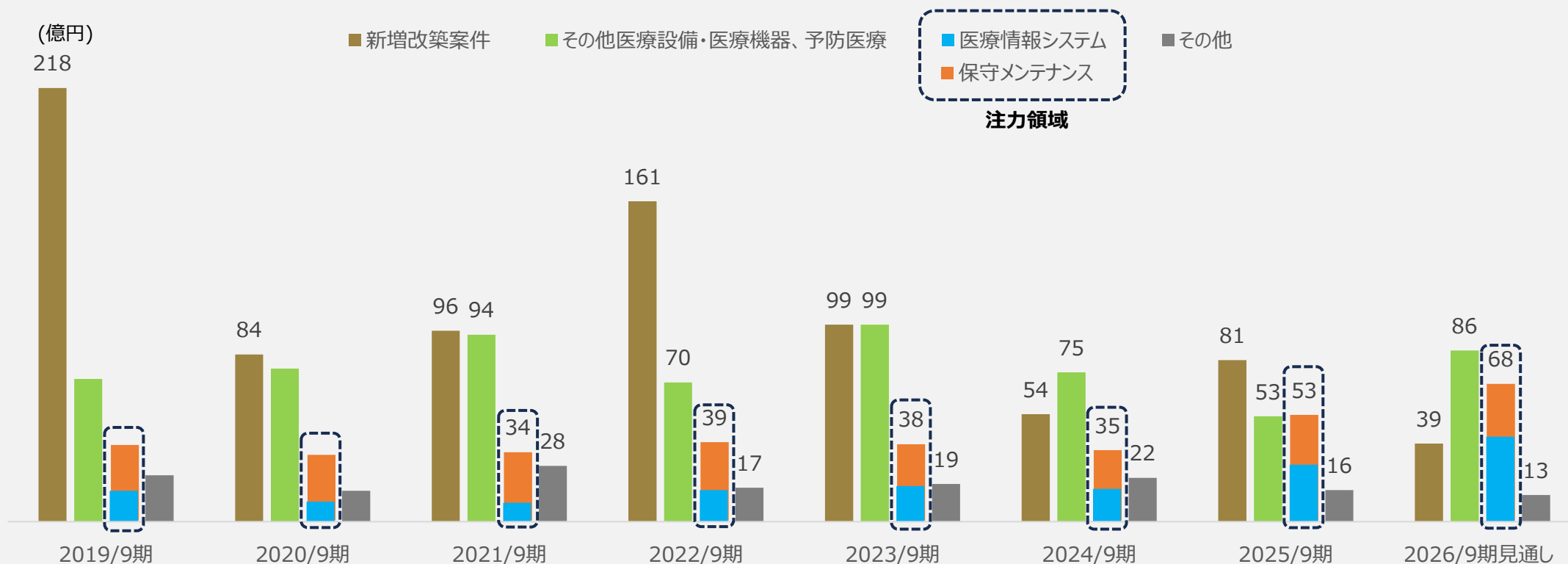
(百万円)	2025/9期			2026/9期			上/下 増減率	前下/今下 増減率
	上期実績	下期実績	通期実績	上期実績	下期見通し	通期見通し		
売上高	12,940	8,549	21,489	24,280	20,219	44,500	▲16.7%	2.4倍
メディカルトータルソリューション	12,337	7,920	20,257	12,475	8,170	20,645	▲34.5%	+3.2%
遠隔画像診断サービス	409	412	822	412	419	832	+1.8%	+1.8%
低侵襲医療機器販売				10,189	10,390	20,580	+2.0%	-
レンタル				317	312	630	▲1.4%	-
その他（2025/9期以前は給食）	193	216	409	885	926	1,811	+4.6%	4.3倍
EBITDA*	541	▲163	378	793	392	1,185	▲50.6%	黒字転換
営業利益	496	▲208	288	526	153	680	▲71.0%	黒字転換
メディカルトータルソリューション	452	▲144	307	304	▲151	153	赤字転換	赤字拡大
遠隔画像診断サービス	41	27	69	41	31	73	▲24.2%	+13.0%
低侵襲医療機器販売				183	196	380	+6.5%	-
レンタル				37	50	88	+35.1%	-
その他（2025/9期以前は給食）	1	7	8	18	23	42	+23.2%	3.2倍
調整	1	▲98	▲97	▲59	3	▲56	黒字転換	黒字転換
経常利益	513	▲204	308	507	102	610	▲79.9%	黒字転換
親会社株主に帰属する当期純利益	344	▲191	152	235	▲5	230	赤字転換	赤字縮小



メディカルトータルソリューション事業 売上内訳推移

- メディカルトータルソリューション事業の売上は若干の減額修正となるも、その主因は新增改築案件の前提引下げ
- しかし、事業の売上構成が変化するとの見通しに変更はなし。主力の新增改築案件は病院の経営環境厳しく苦戦。その一方、前期伸び悩んだ医療設備・機器、予防医療は堅調に推移し、注力領域である医療情報システム、保守・メンテナンスはさらに伸長を見込む

メディカルトータルソリューション事業売上内訳



新增改築案件 予想前提

- 2026/9期の新增改築案件の売上想定も見直し。年間で39億円を想定し、前期比では52%減収となる見通し
- 年間想定に対する2Qまでの新增改築案件売上進捗率は35%程度で、下期は対上期では増収を想定するも、更なる売上の確保に取り組む

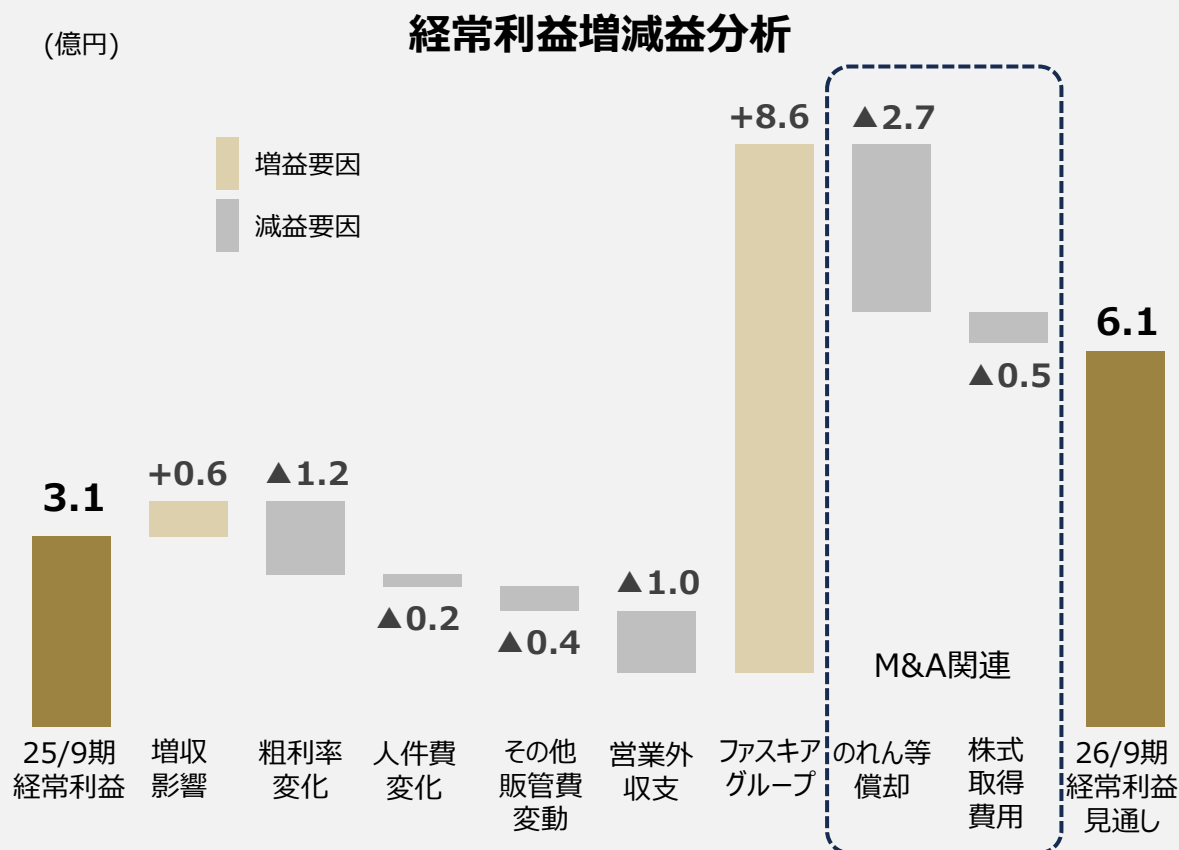
メディカルトータルソリューション事業における病院新增改築案件向け医療機器一括販売の推移

(百万円)		2023/9期	2024/9期	2025/9期	2026/9期		前期対比
					2Q実績	通期見通し	
20億円以上	売上高	2,296	2,942	3,768	-	-	▲3,768
	件数	1	1	1	-	-	▲1
	平均単価	2,296	2,942	3,768	-	-	▲3,768
10億円以上	売上高	3,594	-	1,302	-	-	▲1,302
	件数	3	-	1	-	-	▲1
	平均単価	1,198	-	1,302	-	-	▲1,302
10億円未満	売上高	3,984	2,449	3,049	1,406	3,930	+880
	件数	13	10	10	5	12	+2
	平均単価	306	244	304	281	327	+22
合計	売上高	9,874	5,392	8,120	1,406	3,930	▲4,190
	件数	17	11	12	5	12	-
	平均単価	580	490	676	281	327	▲349
事業売上に占める一括販売比率		38.7%	29.0%	40.1%	11.3%	19.0%	+21.1pt



2026年9月期 経常利益増減益要因分析

- 増益は今期よりグループ化したファスキアが牽引。のれん償却やM&A関連費用の計上はあるも、大きく利益に貢献
- 一方、旧レオクラングループとなる従来ベースの想定増減益要因分析では、前期に計上したメディカルトータルソリューション事業の好採算案件一巡に伴う粗利率低下が収益の重石となり、減益となる見通し



<旧レオクラングループ>

- 増収影響 +0.6億円
 - ・メディカルトータルソリューション事業は微増収
- 粗利率変化 ▲1.2億円
 - ・粗利率は0.6pt低下 (12.8%→12.2%)
- 人件費変化 ▲0.2億円
- 営業外収支 ▲1.0億円
 - ・借入増に伴う支払金利負担増

<ファスキアグループ>

- 経営統合 +8.6億円
- M&A関連費用 ▲3.2億円
 - ・のれん等の償却 ▲2.7億円
 - ・株式取得関連費用の増加 ▲0.5億円

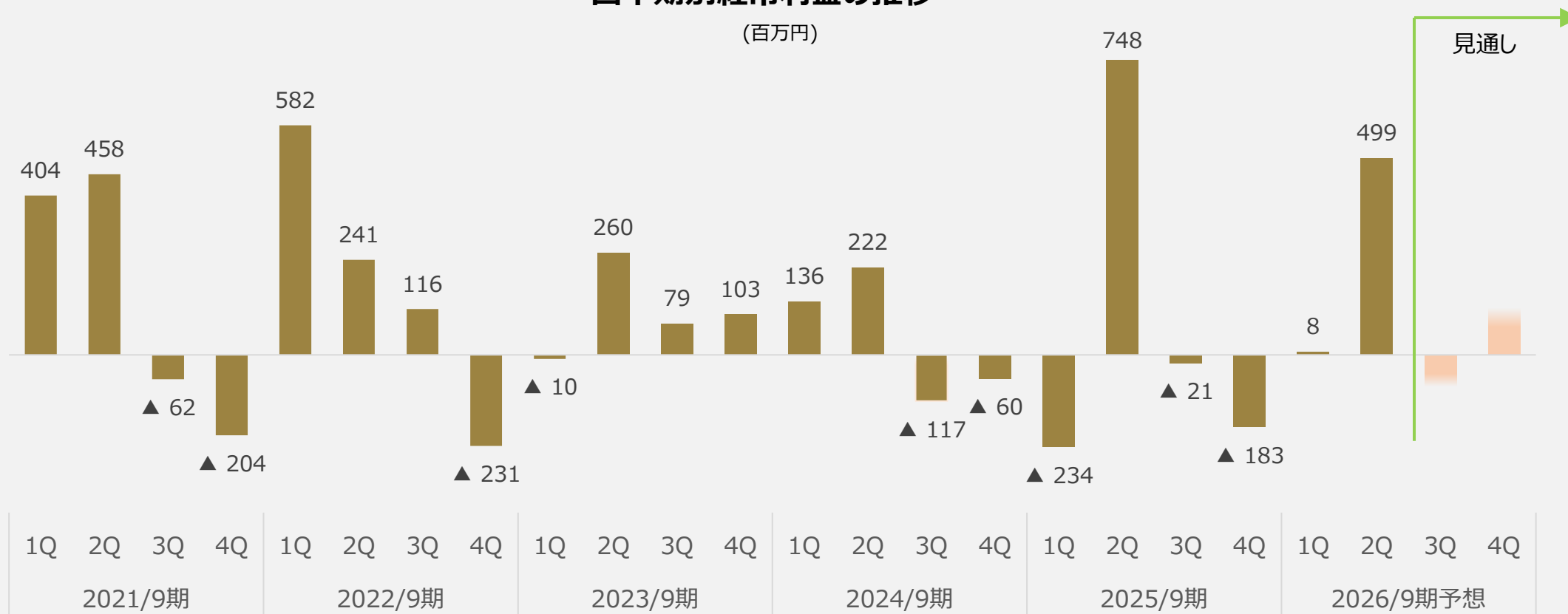


2026年9月期四半期別経常利益想定

- 2026/9期3Qはメディカルトータルソリューション事業の案件計上少なく、経常赤字を想定。一方、4Qは再び案件計上に伴い黒字浮上を予想
- 低侵襲医療機器販売は利益を安定的に下支えるも、メディカルトータルソリューション事業における案件計上のタイミングによるボラティリティは依然として残る見通し

四半期別経常利益の推移

(百万円)





3


トピックス

- 1 中間持株会社の吸収合併**
- 2 資本コストや株価を意識した経営（アップデート）**



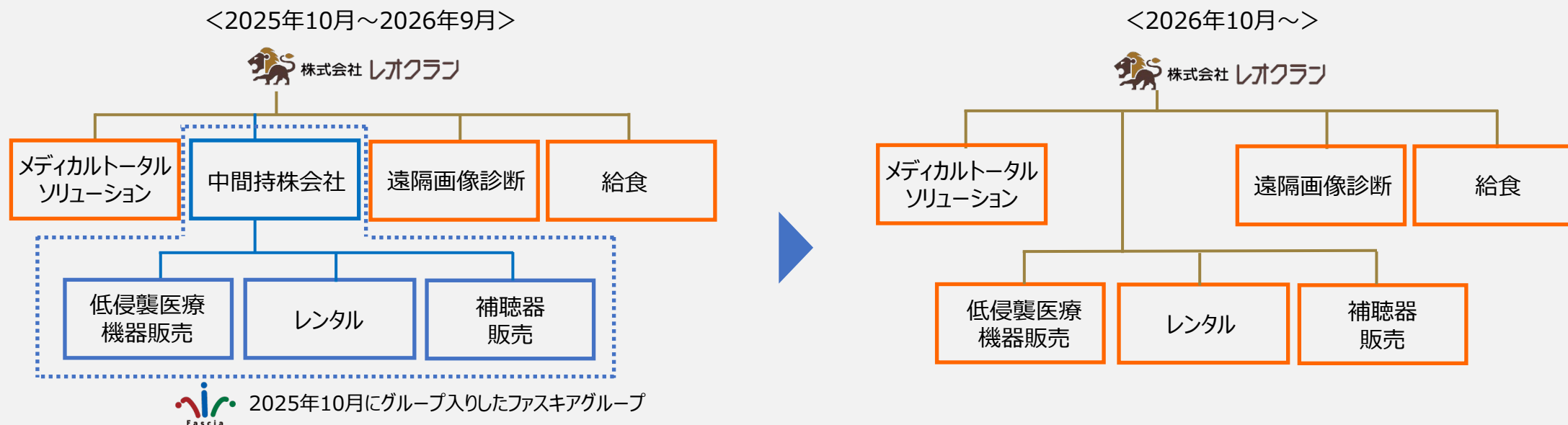
トピックス1：中間持株会社の吸収合併

2026年10月 中間持株会社の吸収合併を計画し、**重層的な経営機構を解消**

被吸収会社： 2025年10月にグループ参画したファスキアHD 

狙い： 管理体制の簡素化による経営効率化
経営と執行のより明確な分離による意思決定速度の加速

会計的インパクト： 期間損益に影響はなし

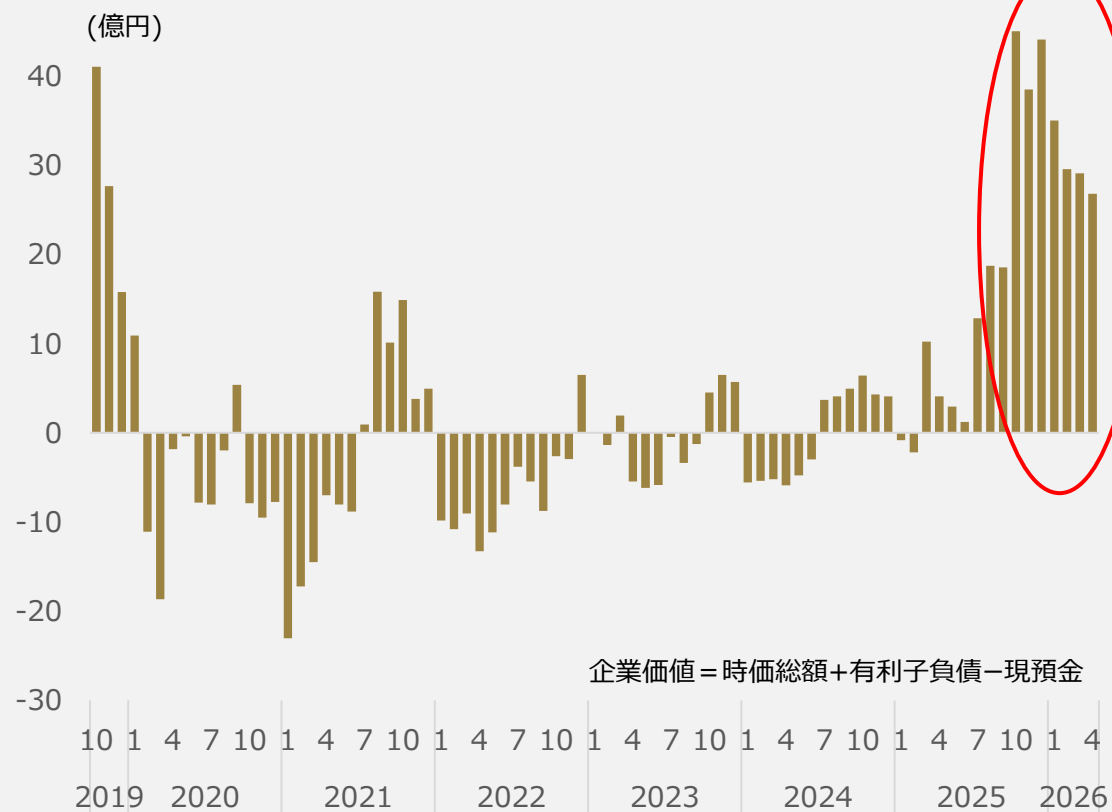




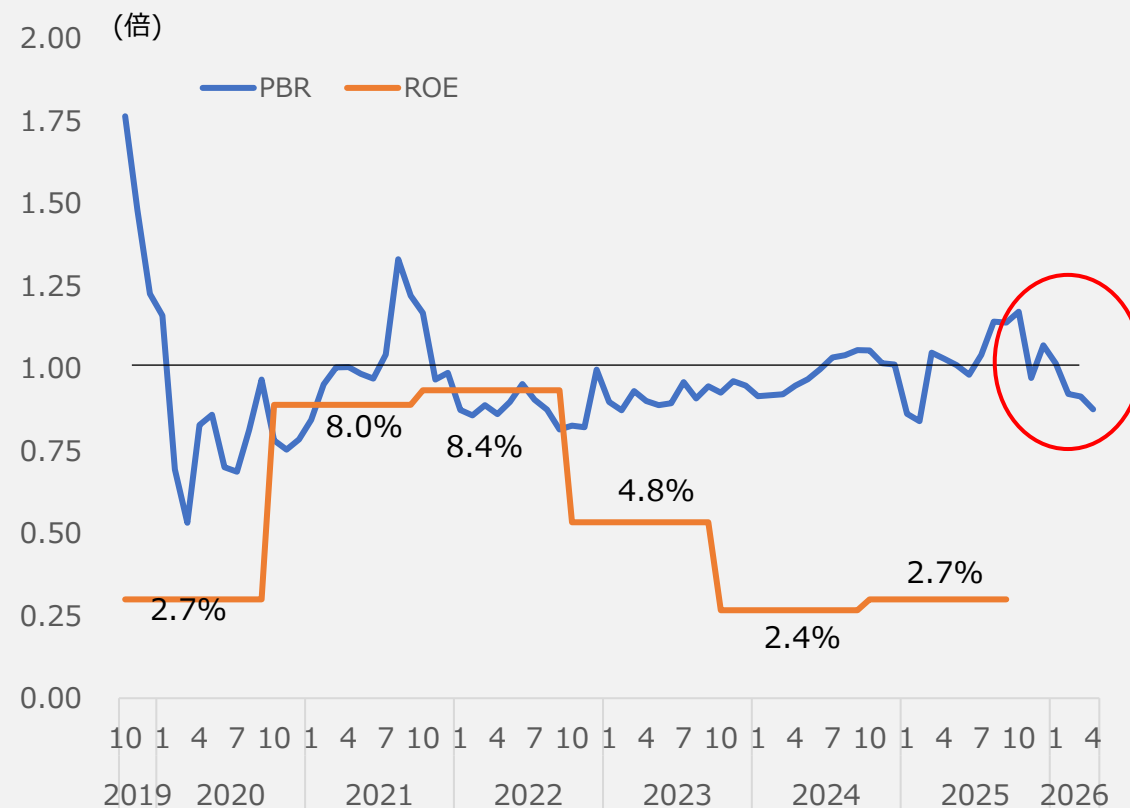
トピックス2：資本コストや株価を意識した経営（アップデート）

- 企業価値はじりじり低下。ファスキア買収などで評価は高まったものの、その後は期待が持続していない状況。PBRも再び1倍割に
- 市場には成長に向けてのアクションの発信強化を継続

企業価値の推移



PBRとROEの推移





業績・財務ハイライト

決算年月		2020年9月	2021年9月期	2022年9月期	2023年9月期	2024年9月期	2025年9月期	2026年9月期 2Q
売上高	(千円)	21,996,890	26,347,156	29,767,431	26,632,145	19,804,248	21,489,527	24,280,794
経常利益	(千円)	207,244	595,939	709,660	431,662	181,146	308,848	507,939
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	120,839	390,983	437,051	271,306	136,057	152,781	235,777
包括利益	(千円)	141,111	427,266	462,709	294,367	112,733	176,237	217,515
資本金	(千円)	536,169	539,369	539,369	539,369	542,869	545,975	545,975
発行済株式総数(自己株式を含む)	(株)	1,954,400	1,960,800	1,960,800	1,960,800	1,967,800	5,922,000	5,922,000
純資産額	(千円)	4,817,569	5,159,691	5,537,971	5,724,103	5,741,300	5,819,364	5,924,852
総資産額	(千円)	13,414,303	12,964,840	13,468,183	14,693,938	10,659,647	10,869,407	26,577,997
1株当たり純資産額*	(円)	802.93	855.78	915.42	946.33	943.51	951.55	968.49
1株当たり配当額	(円)	45.0	40.0	50.0	50.0	50.0	17.0	—
1株当たり当期純利益*	(円)	20.84	66.64	74.30	46.12	23.09	25.86	39.82
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益*	(円)	20.62	66.11	73.84	45.84	22.96	25.76	—
自己資本比率	(%)	35.1	38.8	40.0	37.9	52.3	51.8	21.6
自己資本利益率	(%)	2.7	8.0	8.4	4.8	2.4	2.7	4.1
配当性向	(%)	72.0	20.0	22.4	36.1	72.2	65.7	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲1,906,273	1,298,076	242,357	341,555	33,083	▲86,650	1,869,190
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲63,598	▲42,129	▲49,958	▲82,011	100,752	▲619,823	▲3,809,945
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	238,372	▲298,007	▲120,931	▲202,311	▲97,225	▲100,727	4,725,147
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	4,430,782	5,388,721	5,460,189	5,517,421	5,554,031	4,746,830	7,531,222
従業員数	(人)	157	162	175	176	170	155	360
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(54)	(58)	(62)	(62)	(62)	(68)	(73)

*2024年10月1日付株式分割(1:3)の影響考慮後



ご留意事項

当資料は、当社の現状をご理解いただくことを目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料に記載されている内容は、当資料発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断される一定の前提に基づく計画、期待、判断を根拠としております。したがって、実際の業績等は、経済情勢等様々な不確定要素の変動によって、記載の業績予想等と異なる結果になる可能性があります。実際に投資を行う際のご決定は、必ず投資家ご自身の判断に基づきなされるようお願いいたします。

株式会社レオクラン
経営企画室 IR担当
TEL : 06-4965-8634
Email : ir-support@leoclan.co.jp